

科目名		外国事情ⅡB(Foreign Affairs ⅡB)							
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第4学年	経営情報学科	学修	1単位	必修	講義	後期 100分/週	45時間		
担当教員		【常勤】根岸 可奈子							
学習到達目標									
科目の到達目標レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・主要国や都市名および位置を地図上で示すことができる。 ・日本経済が国際社会のなかでどのような立場にあるのか理解する。 ・各国の特徴を理解することができる。 								
学習・教育目標	F③④	JABEE基準1(2)		(a)					
関連科目, 教科書および補助教材									
関連科目	外国事情ⅡA								
教科書	資料配布(引用する文献やについてはその都度資料内に示す)								
補助教材等	資料配布(引用する文献やについてはその都度資料内に示す)								
達成度評価(%)									
評価方法 指標と評価割合	中間試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	レポート	口頭 発表	成果品	ポート フォリオ	その他	合計
	30	30		30	10				100
知識の基本的な理解 【知識の基本的な理解】	◎	◎		○	○				
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】	○	○		◎	○				
汎用的技能 【論理的思考力】	○	○			○				
態度・志向性(人間力) 【主体性】					○				
総合的な学習経験と 創造的思考力 【創成能力】				○					
学習上の留意点および学習上の助言									
<p>各種講義やニュースで登場する国や地域について理解を深める前提条件として、最低限各国・地域の概況やその背景にある政治・歴史について覚えてもらうことになる。一見量は多く見えるが、ポイントは絞られているため講義中にそれを見抜くこと。</p> <p>口頭発表はグループ単位で実施してもらう。事前に採点方法を示すが、条件を順守し十分に準備をし臨むこと。</p>									

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	授業紹介	授業の概要や方法について理解する。	(復習) 日本と関係が深い国々を中心に地図上の位置を確認しておく。
2	世界経済と日本	日本と他国がどのように関わっているのか、現状を理解する。	(予習) 日常における日本と外国の接点を資料から見つける。
3	経済的な側面からみる近代史	現在の日本と他国との関係がどのように築かれてきたのか、1929年以降から歴史的に理解する。	(復習) 日本と諸外国の経済的つながりについて資料をまとめ見解を述べる
4	経済統合	FTAの締結やWTOの意義について経済的地域統合の観点から理解する。	(予習)FTAや貿易に関する雑誌記事を読み内容をまとめる。 (復習)なぜFTAが増加しているのか、そもそもなぜ日本は諸外国と貿易を行っているのかを考え見解を述べられるようにしておく。
5	貿易	国家間関係において重要な要素の1つである貿易について基礎事項を理解する。	
6	BRICs概況	今後高い成長率が見込まれるBRICsについて、それぞれの概況を把握する。	(予習)BRICsおよびタイについて、その位置と包含される国々の位置を確認しておく。 (復習)対象国がどのような特徴をもっているのかを確認しておく。
7	タイ	タイの経済、社会、文化的要素について理解する。	また、今後日本がこれらとどのような関係を築いていくのか独自の見解を述べられるようにしておく。
8	中間試験		
9	ベトナム	ベトナムの経済、社会、文化的要素について理解する。	(予習) 事前に告知される条件に基づき、各国について口頭発表の準備をしておく。
10	インドネシア	インドネシアの経済、社会、文化的要素について理解する。	(復習) それぞれの国の概況を確認しておく。また、それら諸国と日本の関係について独自に見解を論ぜられるようにしておく。
11	中国	中国の経済、社会、文化的要素について理解する。	
12	シンガポールとミャンマー、ラオス、カンボジア	シンガポールとミャンマー、ラオス、カンボジアの経済、社会、文化的要素について理解する。	
13	インド	インドの経済、社会、文化的要素について理解する。	
14	ドイツ	ドイツの経済、社会、文化的要素について理解する。	
15	まとめ	試験問題の解説を通じ、ミスを修正する。論述に関する議論を通じ、理解を深める。	
総 学 習 時 間 数			45 時間
講 義			25 時間
自学自習			20 時間